

令和4年度 栃木市教育研究所 研究所員研修会 研究記録カード

1 部会名	特別支援教育		部 会
2 研究所員 事務所員 ◆:代表者	研究所員 ◆田端 省吾 (栃木中央小) ・老沼 知香 (大平南小)	・青木 百合恵 (大平中) ・和久井 達也 (大平南中)	事務所員 ・飯田 浩子 ・井口 美香子



3 研究テーマ

どの子ども安心して学びに向かえる環境づくり

4 研究の取組

(1) 研究内容

対象児がもっている特性、うまくいっていること、つまずきがみられることをもとに、支援の仕方を考えていく。特に学習において、学習のレベルを下げるのではなく、それぞれの特性に合った支援の下で、どの子ども安心して学ぶことができる支援を目指していく。そのために教室環境や個別の支援に配慮した授業実践を行い、より効果的な支援の方法について研究していく。

(2) 研究計画

月 日	研修内容	月 日	研修内容
5月6日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	11月29日	授業参観
6月17日	研究テーマ・内容の協議、計画作成		(大平南中 和久井先生 3年 数学)
6月末～7月	研究テーマ決定	2月7日	実践授業振り返り
9月22日	実践例報告・協議	2月10日	研究のまとめ
11月8日	授業参観 (栃木中央小 田端先生 5年 算数)	2月24日	1年次報告提出
11月25日	実践授業振り返り		

5 研究の成果と課題

【成果】

〈教室環境〉

- ・教室前方の掲示物を減らす、チョークの色を意識した板書など、学習環境を整えることで、児童生徒が落ち着いて学習に取り組める等、一定の効果を感じられた。

〈全体指導・個別の支援〉

- ・授業参観や支援の実践例の共有を通して、児童生徒の特性に応じた手立てを知ることができた。

【課題】

〈全体指導・個別の支援〉

- ・一人ひとりの特性に応じた支援について、さらに実践を重ねながらその効果を検証していく必要がある。(授業の流れをつかみやすい板書、机間指導における言葉かけ等)

6 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

一人ひとりの特性に応じた支援について、授業参観や支援の実践例をさらに積み上げることで、安心して活動できる効果的な方法について検討したい。